

この度、当東京帝国大学において、数回に亘り講義する機会を与えられましたことを甚だ欣幸に存じます。つきましては、当講義及びその他の公演の為、ご招待くださいました貴国の国際文化振興会、並びに私をこのようにまでご歓待くださいます貴大学に対し、まず深厚なる謝意を申し述べます。特に貴学理学部及びその同僚に感謝し、ここに敬意を表する次第であります。

この講義は、どこまでも皆様にわかって頂きたい念願でありますから、もし不明瞭になるようなことがありましたら、学生諸君！いつでも私を止めてくださるようお願いいたします。

さて、これから多変数の解析函数のお話をするのでありますが、まず文献をはじめに：

Forsyth: Theory of functions of two complex variables, Cambridge University Press, 1914.

この題目における最古の文献。その内容は今日においてはかなり古い。

Osgood: Lehrbuch der Funktionentheorie, Bd. 2, 1<sup>te</sup> Lieferung, Leipzig, Teubner, 1929  
は良書であるが、これも完全とは言い難い。

Severi: Risultati, vedute e problemi nella theoria delle funzioni analitiche di due variabili complesse, Rendiconti sem. mat. Roma, 1932.

これは、私の幾何学的観点から見た、1932年までのこの理論の進歩の報告である。

Behnke und Thullen: Theorie der Functionen mehrerer komplexer Veränderlichen, Berlin, Springer, 1934.

は、1934年までに至るこの理論の発展をほとんど完全に伝えた良書である。しかし、これは、少ないページ数に多量のことが圧縮して書かれてあるので、証明は皆は書いてない。この書の終わりには、詳細な文献目録が添えられてある。

なお、日本語で

辻正次氏: 多複素変数函数論 (岩波講座, 1935)

がありますが、本講座では、常に幾何学的立場を取り、辻氏の講座に触れられなかった問題をも扱いますから、両方互いに補い得る性質のものと考えます。

以後、多変数と言っても、主に2変数の場合においてまず述べます。それよりも変数の数が多い時への拡張は、大抵は易しいからであります。この拡張のために本質的な注意を要する問題においては、講義の最後に取りまとめてお話しすることに致します。

これから本論に入ります。